

令和4年度 政務活動費 先進都市調査報告書

会派名	公明党室蘭市議会
議員名	細川 昭広、砂田 尚子、柏木 隆寿
調査実施年月日	令和4年11月2日(水)
調査先 自治体名等	東京都葛飾区
調査項目	「SDGsと葛飾版ネウボラについて」
調査目的	葛飾区のネウボラ事業とSDGsの取組みについて調査し、本市の子育て支援の充実に活かす取組みを進めるため
報告内容 実施したこと	<p>1 視察先(市町村)の概要 人口:463,353人 (R4.9.1現在) 行政面積:34.80km²</p> <p>2 視察内容 東京都葛飾区は令和2年10月の日本経済新聞社主催の「第2回SDGs先進度調査」において全国3位(第1回は14位)となった。特に社会の分野で評価が高く順位を上げた。その中で切れ目ない子育て施策の推進として「葛飾版ネウボラ」の充実があり調査した。(因みに本市は全国525位:回答691市区) 区のネウボラ関連の令和3年の事業費決算をみると、総額154,419千円で歳入における交付金等は国57,089千円、東京都87,108千円となっており、区の支出は10,222千円程度と都の支援が手厚いことがわかる。令和5年から国が子ども家庭庁を設置し妊娠期から出産・子育て期までの包括的な切れ目のない支援を目指しているが、東京都は先行モデルとなって妊娠初期から乳幼児健診、子育て相談などの一元的な取組みを行っており葛飾区においては令和2年1月に「子ども未来プラザガイドライン」を策定し、老朽化した保育園や児童館、保健センターなどの機能を一体化した拠点施設「子ども未来プラザ」を整備し妊娠期から子供が成人するまで利用できる施設で葛飾版ネウボラを推進している。視察した「にこわ新小岩」では乳幼児から高校生までが乳幼児健診や子育て相談、認可保育事業、学習支援などが行われており地域と連携して子どもの育ちを支援していく子育て世代包括支援センターとしての機能を有する施設と事業展開されていた。</p>
感想(まとめ) 本市へ活かせること等	<p>財政力の豊かな東京都の力強い支援があったから取り組めたとも言えるが、国においても東京都の先事例を検証して各地域で取組みを推進すべきと令和5年度予算に交付金等を計上する見込みであり本市もしっかり取り組んでいただきたい。ただ、本市の場合、「にこわ新小岩」のような複合施設を新たに建設することは難しいので交通の便や従前の子育て相談業務などを考えれば既存の登別室蘭保健センターの中で機能充実を図ることが現実的と考える。一方で今回の新型コロナウイルス感染症対策によるワクチン接種事業などが行われた場合はスペースがなくなる懸念がある。また、一番の課題は対応する職員のマンパワー確保である。運営については本市の職員数減少のなかで人材確保は容易ではなく、幼稚園教諭や保育士、教員などの資格保持者、看護師など市職員以外の人材確保も必要と考える。いずれにしても人口減少が著しい本市において子育て世代の定住対策は喫緊の課題であり、就業人口の拡大とともにしっかりと取り組んでいきたい。</p>